

# 山口県萩地方に見られる石組「かけ懸いし石」の構成手法と造園的意味

The Composition and Meaning of KAKE-ISHI Rockwork in Hagi District, Yamaguchi

服部 勉\* 廣兼 基\*\*

Tsutomu HATTORI\* Hajime HIROKANE\*\*

## 1. はじめに

萩地方の庭園石組手法としての「カケイシ」の存在については、古くから市内の造園家の一部では知られており、「カケイシ」という音のみが伝えられていた。

平成5年(1993)に『山口県文化財第24号 特集・古庭園をめぐって』(編集・発行:山口県文化財愛護協会)において廣兼聡は「大島家庭園」(萩市)の「カケイシ」の存在について説明し、「カケイシ」という音に「懸石」という語句をあてた。また萩市付近の古庭園として旧萩城内の庭園にも類例があること、この石組手法が萩地方には多く見受けられることなど、「懸石(カケイシ)」(以下、本論では「懸石」の語句を使用)が萩地方の特異な石組手法であることを初めて誌上で紹介した<sup>1)</sup>。

更に平成6年(1994)に、上記の廣兼聡が関与した山口県教育委員会編集の『山口県の庭園(山口県未指定文化財調査報告)』(発行:山口県文化財愛護協会)には、104庭園が紹介されており、前述の萩市内の大島家庭園を含む県内5ヶ所の庭園内の石組について、萩地方に見られる懸石の手法またはその類例手法であることを説明し、懸石が萩地方の独特な石組手法であることを広く知らせる契機となった<sup>2)</sup>。

また萩市は、旧萩藩の城下町であったことから、旧萩藩に関係する武家屋敷や寺社が多く残されている。また明治維新後も多くの首相などを輩出したため、その生家や別邸など、萩の文化を色濃く残す空間に庭園が付帯する事例も多く残されており、従来確認されている以上に多くの「懸石」が現存する可能性があると言える。

また懸石の用語説明として『山口県の庭園(山口県未指定文化財調査報告)』内の庭園用語解説の項目においては「石の上に、もうひとつの石を石橋風に懸けて載せるところからこの名がある。洞窟・洞門の表現かもしれない。萩地方に多い。」と記載されているにとどまっておらず、その特徴なども明確に示されていないことが現状である。

以上の様な背景を踏まえ、本論では①萩市を中心とした地域に「懸石」がどの程度存在しているかを調査した上で、②石組手法としての「懸石」の特徴、③庭園の作

庭時期からみた「懸石」の出現時期と作庭者との関係、④「懸石」のモチーフを解明することを目的とした。

## 2. 研究方法

懸石を有する庭園の存在と懸石の数の確認については、山口県教育委員会編集の『山口県の庭園(山口県未指定文化財調査報告)』に掲載されていた104庭園の内、萩市所在の13庭園(内、懸石の記載があるものは3庭園)、懸石があるとされる萩市以外の県内2庭園、庭園の説明に「洞窟風・洞窟式」と記載されている県内4庭園、九州芸術工科大学環境設計学科『萩市[浜崎地区]伝統的建造物群保存対策調査報告(増補版)』(発行:萩市建設部都市計画課)<sup>3)</sup>から古庭園が存在すると判明した7住宅、上記の2つの資料には記載されていないものの萩市内の古い住宅で庭園の存在が認められる24住宅の合計50庭園を予備調査の対象とした。

上記の50庭園を対象とし、その所有者・管理者に連絡の後、現地調査を実施し、懸石の有無を確認した。懸石が存在した場合には、懸石の立面形態に近い状態で写真撮影、石質、形状寸法、庭園での用途を調査し、懸石を有する庭園の様式も確認した。

次に石組手法としての「懸石」の特徴については、撮影した懸石の写真をトレースし、全ての懸石の寸法を1:30に合わせ、懸石の形状を二石組・三石組等に分類した。懸石を庭園構成から見て、景石・護岸石組・石橋石組・三尊石組に分類し、庭園内での懸石の用途について分析した。また石質から懸石はどこの石材を用いているのかを特定した。

更に庭園の作庭時期からみた「懸石」の出現時期と作庭者との関係については、現地調査で庭園内の碑文を見ると共に、萩市役所、萩博物館、萩市内の造園会社3社(廣兼運送造園部、官野翠紅園、伊藤造園)、懸石を有する庭園の所有者、萩市の庭園に詳しい元造園家である松村義雄氏<sup>4)</sup>及び郷土史研究家にa.懸石という庭園石組の存在の有無、b.萩地方の庭園で懸石を見たことがあるか、c.懸石を有する庭園の作庭時期はいつ頃か、d.懸石を有する庭園の作庭者について、の4項目についてヒアリ

\*東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科

\*\*有限会社 廣兼運送 造園部

\*Tokyo Univ. of Agriculture

\*\*Hirokane Transport Limited company

ング調査を行った。

なお、懸石のモチーフの解明については、海蝕風景の縮景などと言われており、これについて明らかにするため青海島(長門市)や萩市の海岸において、海蝕洞の写真撮影を行ったのち、懸石の写真と比較分析を実施した。

### 3. 調査結果

#### (1) 「懸石」の分布

懸石の存在は、予備調査の対象とした50庭園からは、8庭園で13石組、またヒアリング調査の結果から、9庭園で10組、現地調査の折に新たに発見したものは6庭園で9組と、山口県内には23庭園に32組の懸石と思われる石組が確認された(表-1)。

内訳は、萩市(19庭園 28組)を中心として、隣町の阿武町(1庭園 1組)、山口市(2庭園 2組)、萩市中心部から直線距離で50km程離れた瀬戸内海沿岸の周南市(1庭園 1組)となっている。

今回の調査結果から、懸石を有する萩市内の19庭園中、14庭園が個人邸であること、後述の様にすでに建物及び庭園と共に石組が解体されてしまったものが存在していたことが確認されたこと等を考えると、萩地方には都市化と共にその存在が知られぬままに消失の危機に曝されている懸石が未だ数多く存在するのではないかと考えられる。

#### (2) 石組手法としての「懸石」の特徴

懸石は、一石がもう一石または二石に懸かるように組まれる、二石または三石の石組に分類される。また共通の特徴としては、石組中央部にトンネル状の空間を有していることが多いことにある。更に他の石に付帯して組まれる変形やまた天端を平らにするものが多いこと、二石組はL字型の石材が多く使われることも特徴として見られた(図-1)。

今回の調査結果では、32組中、二石組(写真-1)が19組、三石組(写真-2)が13組となっていた(表-1、図-2)。

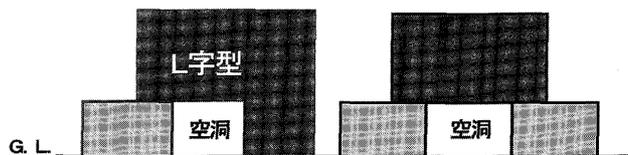


図-1 懸石組(二石組・三石組)の模式図

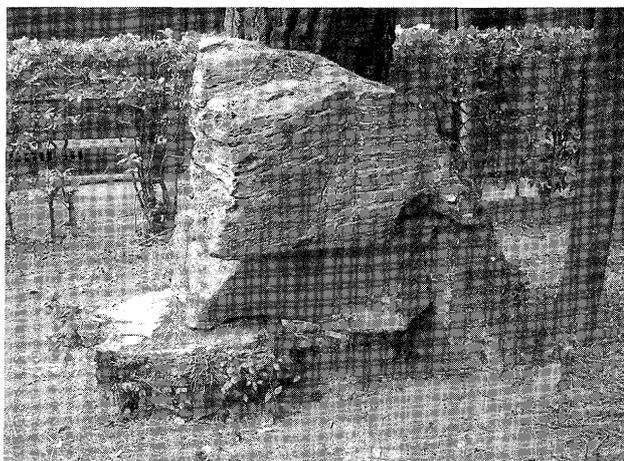


写真-1 二石組の懸石の例(花ノ江茶亭庭園②)

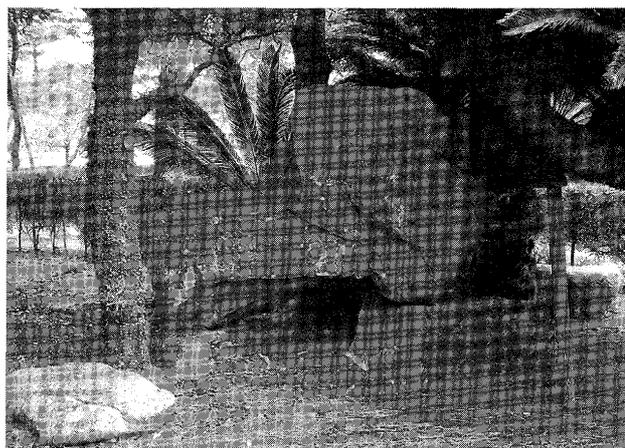


写真-2 三石組の懸石の例(花ノ江茶亭庭園①)

表-1 山口県における懸石の分布

| 庭園番号  | 庭園名称           | 所在地       | 庭園様式     | 作庭時期      | 作庭者          | 平面図の有無 | 懸石の数(32組)                           | 石質   |
|-------|----------------|-----------|----------|-----------|--------------|--------|-------------------------------------|------|
| 1(A)  | 大島家庭園(中・下級武家)  | 萩市土原      | 築山式枯山水庭園 |           |              | ○      | 1(景/二 <sup>※</sup> )                | 玄武岩  |
| 2(C)  | 室田家庭園(中・下級武家)  | 萩市川島      | 平庭式枯山水庭園 | 江戸末期      |              | ×      | 2(景/三, 景/二)                         |      |
| 3(C)  | 俣宿庭園(中・下級武家)   | 萩市南古萩     |          |           |              | ×      | 1(景/三)                              |      |
| 4(B)  | 野田家庭園(中・下級武家)  | 萩市南古萩     | 築山式枯山水庭園 | 江戸末期~明治   | 不明           | ×      | 2(景/三, 景/三 <sup>※</sup> )           |      |
| 5(B)  | 栗屋家庭園(中・下級武家)  | 萩市青海      | 平庭式枯山水庭園 | 江戸末期~明治初期 |              | ×      | 1(景/二)                              |      |
| 6(B)  | 旧永久家庭園(中・下級武家) | 萩市南古萩     |          | 明治初期      |              | ×      | 1(景/三)                              |      |
| 7(B)  | 旧佐伯家庭園         | 萩市川島      | 池泉観賞式庭園  | 明治        |              | ×      | 1(岸/二)                              |      |
| 8(A)  | 瀧口家庭園(豪農)      | 萩市明木(旧旭村) | 平庭式枯山水庭園 | 明治10年     | 三輪家が管理       | ×      | 1(景/二)                              |      |
| 9(A)  | 志都岐山神社庭園       | 萩市堀内      | 池泉観賞式庭園  | 明治11年     |              | ×      | 1(岸/二)                              |      |
| 10(A) | 花ノ江茶亭庭園(萩城内)   | 萩市堀内      | 平庭式枯山水庭園 | 明治22年以降   |              | ×      | 3(景/三, 景/二, 景/二)                    |      |
| 11(B) | 中島家庭園          | 萩市土原      |          | 明治30年頃    | 不明           | ○      | 1(景/三)                              | 玄武岩  |
| 12(A) | 桂太郎旧宅庭園        | 萩市川島      |          | 明治42年     |              | ○      | 4(岸/三, 景/二, 景/三, 岸/三 <sup>※</sup> ) |      |
| 13(C) | 松浦家庭園          | 萩市唐橋町     | 池泉観賞式庭園  | 大正初期      |              | ×      | 2(景/二, 景/三)                         |      |
| 14(G) | 馬屋原家庭園         | 萩市江向      |          | 大正        | 東京の人         | ×      | 1(景/二)                              |      |
| 15(B) | 高木家庭園          | 萩市唐橋町     | 平庭式枯山水庭園 | 大正~昭和     |              | ×      | 1(景/三)                              |      |
| 16(B) | 菊屋家庭園(豪商)      | 萩市具服町     | 築山式枯山水庭園 | 昭和9年      | 中村精作が関与か     | ○      | 1(景/二)                              |      |
| 17(G) | 長門大井駅前庭園       | 萩市大井      |          | 昭和24年     | 中村精作         | ×      | 2(景/二, 景/二)                         |      |
| 18(C) | 松陰神社庭園         | 萩市榊東松本市   | 平庭式枯山水庭園 | 昭和34年     | 不明           | ×      | 1(景/二)                              |      |
| 19(B) | 松洞園庭園          | 萩市船津      |          | 昭和42年10月  | 中村精作(=中村精作)  | ×      | 1(橋/二)                              |      |
| 20(B) | 奈古駅前庭園         | 阿武町奈古     | 平庭式枯山水庭園 | 昭和4年前後    | 中村精作         | ×      | 1(景/三)                              |      |
| 21(A) | 善生寺庭園(浄土宗の寺)   | 山口市古殿町    |          | 江戸中期      |              | ×      | 1(橋/三)                              |      |
| 22(A) | 藤山堂庭園          | 山口市香山町    | 池泉観賞式庭園  | 明治24年4月   | 不明           | ×      | 1(岸/二)                              | 泥質片岩 |
| 23(A) | 山崎八幡宮庭園        | 周南市富田     |          | 明治22年     | 岩崎庄左衛門・西村儀兵衛 | ×      | 1(橋/二)                              | 不明   |

注1:(A)~『山口県文化財第24号 特集「古庭園をめぐって」』、『山口県の庭園(山口県未指定文化財調査報告)』の資料を基に発見、(B)~ヒアリング調査により発見、(C)~個別訪問により発見  
注2:行政区は平成17年の市町村合併以降のものを使用 注3:景…景石、岸…崖岸石組、橋…石橋石組、幕…三幕石組 注4:二…二石組、三…三石組、二<sup>※</sup>、三<sup>※</sup>…変形パターン

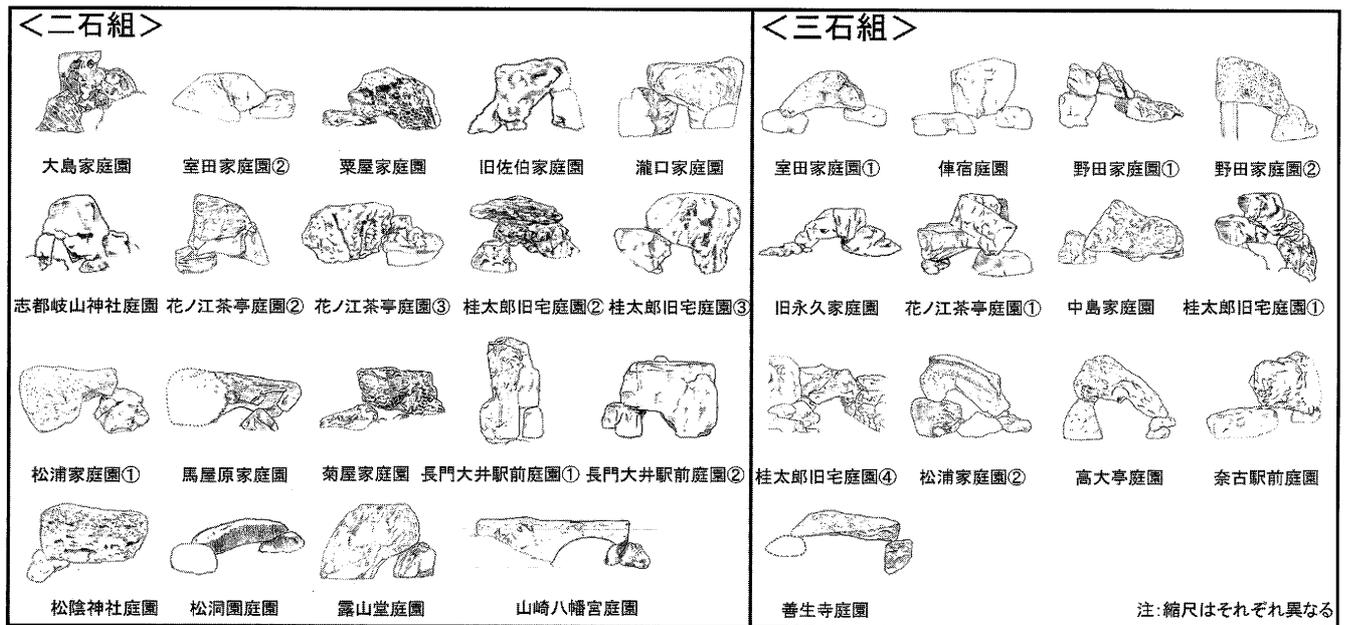


図-2 山口県における 23 庭園 32 組の懸石の形状一覧

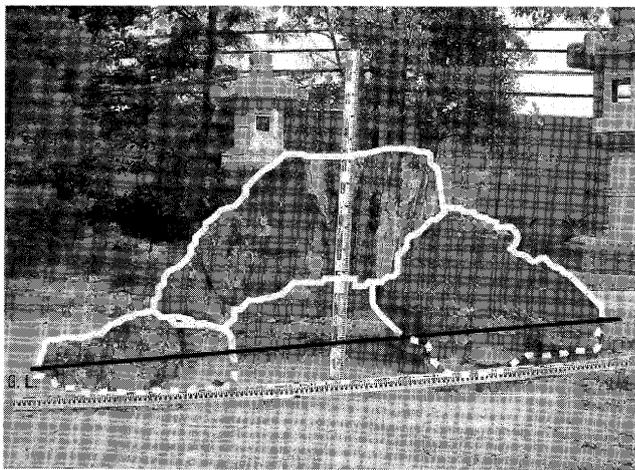


写真-3 旧永久家庭園の懸石(上:解体前 下:解体後)

図-2におけるように大島家庭園にある懸石は二石の前にもう一石据えてあり、書院側から見ると、トンネル状の部分に見えるが石が懸かっていることは確認できず、これは二石組の中でも特殊なパターンであると言える。

三石組の中にも変形パターンが2つ認められた。野田家庭園には二組の懸石があり、一つは景石となっているが、野田家庭園②は三尊石の脇に、三尊石に付帯して組まれて、支柱に切石を使用している。

桂太郎旧宅庭園には四組の懸石があり、桂太郎旧宅庭

園④の懸石では、池泉の左右の護岸の上に一石が置かれ、橋のように組まれている。これは書院から庭園を眺めた時に流水の導入部である樋門が見えないように隠しているものだと考えられる。

懸石は今回の調査では一つの庭園内に一組というのがほとんどであったが、花ノ江茶亭庭園や桂太郎旧宅庭園のように三組、四組と多く存在するのは異例ともいえる。

特に花ノ江茶亭庭園は懸石の集合体となっており、これは旧萩城内の庭園にあった懸石を集めて花ノ江茶亭庭園に持って来たのではないとも考えられる。

また構成上、景石、護岸石組、石橋石組、三尊石組、の4つに分類されたが、特に多く用いられるのは景石としての懸石であり、全体の約7割を占めている(表-1)。

庭園の主景となるものは少なく、玄関の前庭や縁先など、懸石を単体の景石とすることが多い。

石材は玄武岩(22組)、花崗岩(4組)、流紋岩(3組)、泥質片岩(1組)であった。萩市内の懸石については、そのほとんどが市内にある笠山産の玄武岩を使用しており、その形状が懸石組に利用しやすいこと、地理的に近い地場材から多用されていると考えられる。

なお、普通は石組というものは地上部しか見ることが出来ないが、平成17年8月に家屋と共に解体され現在、市内の造園会社が旧態のまま保存している旧永久家庭園の懸石(写真-3)、を見ると土台となる二石が地上部から20cm程埋まっており、トンネル状の空間を最大限に見せるための深さといえる。

### (3) 「懸石」の出現時期と作庭者との関係

#### a. 懸石の出現時期

萩市内で懸石を有する庭園では大島家庭園等のように作庭が江戸末期まで遡るものが見受けられことから、作

庭期と同じく懸石も少なくとも江戸末期には出現していたと推定することが現状では妥当と考えられる。

しかし、山口市・善生寺庭園<sup>5)</sup>の作庭時期は江戸中期といわれているが、懸石が位置する場所は、大正7年(1918)に書院の増築に伴い、池泉の埋立を行い、池を縮小した位置に相当する可能性が高い。

このように懸石の設置された時期と庭園全体の作庭時期が必ずしも一致しない例もあり、庭園内の懸石が後代に追加されている事例も少なくないと考えられる。

#### b. 懸石を有する庭園の作庭者

江戸時代、萩には町屋の庭を主とする「三輪家」、萩藩に関係した庭造りに関与していた「寺田家」が造園業者として大きな勢力を持っていたと言われている。

JR山陰本線長門大井駅(昭和4年開業)前に付帯する庭園には開業20周年記念の自然石の碑(設置年不明:昭和24年か)が設置されており、「作庭者 中村精作」と明記されている。

また松洞園庭園の碑には「作庭者 翠園」とあり、「翠園」とは萩市内の別の庭園の碑から、中村翠園であることが判明しており、この両者は萩市の庭園史に詳しい元造園家・松村義雄氏の証言から、同一人物であること、中村精作は三輪家の弟子であったことが判明した。

松村氏の話では、中村精作は上記2庭園以外にも萩市内の多くの庭園の作庭に関与していたとされ、今回の調査で、懸石を有する庭園の作庭者が初めて明らかになった。

上記のような事例から、昭和期に造られた懸石を有する庭園の多くには中村精作という作庭者が大きく関与していることが示唆された。

明治22年(1889)に作庭の周南市の山崎八幡宮庭園の作庭の碑(明治23年設置)には、「造築人 岩崎庄左衛門 西村儀兵衛」の名があり、萩の懸石手法を真似して組んだとも考えられる。

また詳細は不明であるが、萩市の馬屋原家庭園の所有者の話によれば、大正時代に東京の人が来て作庭したという例もあり、近代以降にも懸石が庭園内に多く設置されていたことが示された。

#### (4) 「懸石」のモチーフ

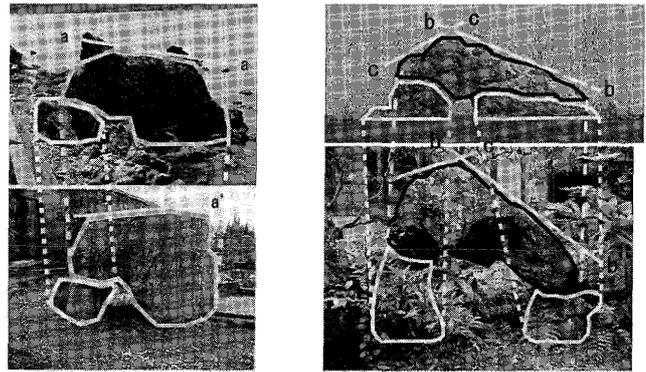
懸石が造られたモチーフとして、海蝕風景の縮景、洞窟石組の大きく二つの説が挙げられている。

懸石の形状は、日本庭園や蘇州の中国庭園に多くある洞窟石組に良く類似している。

しかし、懸石は空間部分がトンネル状になっており、庭園構成上も、懸石が景石として用いられるのに対し、洞窟石組は護岸石組の一部に用いられる事が多い点が異なっている。

一方、山口の景勝地として有名な青海島(長門市)と同様に萩市の日本海に浮かぶ島々や沿岸には荒波に侵食されて出来た造形的な海食洞が数多く見られる。

そこで海蝕洞と懸石の二石組、三石組の形状や天端の



左上:日本海沿岸の海蝕洞 右上:青海島の海蝕洞  
左下:長門大井駅前庭園の懸石 右下:高次亭庭園の懸石

#### 写真-4 海蝕洞と懸石の基本形状との類似性

角度などから両者の類似性を検証した結果、両者の構成は極めて良く似ており、自然の造形美を日本古来の石組表現で縮景的に示したものとも考えられる(写真-4)。

#### 4. おわりに

懸石については、本稿においてその分布や形態といった基本的事項の整理がなされたと考えられる。

しかし、萩市を中心として古庭園の調査を実施したが、先述した様にまだまだ多くの懸石が個人邸の庭園などに残されている可能性は極めて高い。

しかし、萩市内の古庭園は全てが文化財としての登録がなされていないため、建造物の建て替えなどに伴い庭園と共に消失してしまう可能性が非常に高い。

その為、山口県、萩地方の地域性豊かな庭園の実像解明を実施する上で、懸石及び庭園が解体されてしまう前に古庭園の悉皆調査、測量及び平面図の作成を行い、記録保存すべきことが今後の大きな課題といえる。

#### 参考文献

- 1) 廣兼聡(1993):大島家庭園:山口県文化財 第24号 特集・古庭園をめぐって:山口県文化財愛護協会、38-42
- 2) 山口県教育委員会文化課(1994):山口県の庭園(山口県未指定文化財調査報告):山口県文化財愛護協会、33、46、97、102-103、106-107、110-111、114-115、118
- 3) 九州芸術工科大学環境設計学科(2002):萩市[浜崎地区]伝統的建造物群保存対策調査報告(増補版):萩市建設部都市計画課
- 4) 大正13年(1923)生まれ、萩市新川在住。  
松村義雄氏は、三輪家の弟子であった松村鶴雄の弟に当たる。
- 5) 多々良美春(2006):善生寺(元:西方寺、前:周慶寺)の庭園について:平成18年度関西大会研究発表会資料集:日本庭園学会、31-34